

その1

思いやりのある、気づかいはできる子になるにはどうしたらいいでしょうか



回答者：鈴木裕美

まず、思いやりの見本を親がたくさん見せることです。祖父母に対しての気遣い、父(母)親に対しての労いや思いやりをみせましょう。そして、子どもに対して温かく、前向きな言葉(「大丈夫だよ」「いつもありがとう」「何かできることはないかな」など)をたくさんかけましょう。**子どもは思いやられて、思いやりを学ぶ**のです。

ただ、男の子は女の子と比べて、人の気持ちを察することや共感することが不得意なので、**男の子には思いやりの示し方を具体的に教える**のが得策です。思えば、夫も思いやりはあるのですが、「気が利かない」って思うことはあるでしょう？**女が望むような思いやりの示し方は、学ぶ必要があります。**

例えば、お使いに行ったら「荷物を持ってくれる？」(自分から荷物を持ってくれることを期待しない)、持ってくれたら「助かったよ。ありがとう」と必ず感謝の気持ちを示し、嬉しそうにする(ほうびです)などです。思いやりも最初は仕事や義務でも、**習慣になれば負担になりませんね。**

その2

親子で一緒にゲームを楽しむことは、子どもとコミュニケーションをとること、安定した愛着をつくることになりますか？

子が楽しんでいることに関心を持ち、一緒にプレイする、または話を聞くだけでも、子どもの「見てほしい」という気持ちが満たされます。やめられないほど楽しいことを親も分かれば、実行可能なルールを一緒に考えることができます。**子どもを理解しようとする気持ちや一緒に楽しもうとする姿勢は、安定した愛着をつくること**になります。